

## 地域・都市の総合交通政策の研究

主査 松澤俊雄(大阪市立大学大学院教授)

本研究グループではこれまで都市圏構造の分析と、交通部門における輸送・インフラ整備における制度的変化およびその分析を通じて、地域・都市交通における総合的交通政策の研究を進めることで成果を発表してきた。本年度は都市圏の近年における産業・居住立地の変貌と交通インフラの整備・運営状況をふまえたうえで、地域・都市交通政策における合理的・効率的な交通機関分担を主なテーマとして研究を進めてきた。これまで構築してきたわが国（取りわけ京阪神圏）の都市圏交通流動データの一層の発展・活用により、上記テーマでの研究を進行させるとともに、個別自動車交通と公共交通の間でのインフラ整備・運営・利用のあり方だけでなく、公共交通資本整備運営の組織的・制度的課題についての検討も行った。一方では、これまで研究してきた都市交通における規制改革の成果についても、部会活動をより充実することによって、より多面的に調査・研究を進めた。2009年度の研究報告書はこれらの研究成果についての論考を収めている。

全体研究会では、都市圏における土地利用や人口構成のパターンを反映した交通手段選択に関する、「就業地の郊外化と通勤交通手段の変化—個人属性を含めた考察—」；道路インフラ投資の地価への影響を分析した「社会資本としての大阪府の道路整備水準について」；制度面を重視した「アメリカにおける道路財源制度の推移とオバマ政権の交通政策」；都市交通における面的交通をカバーする、「タクシー産業における競争、規制、制度設計—福井都市圏における事例とその含意」、「自転車によるまちづくり」(共)、「鉄道会社のビジネスサイクルモデル」(共)；都市圏空港の存在と地域経済・後背地への輸送問題と道路整備についての、「日本の航空貨物流動」；「イギリス地方空港における所有形態と経営成果に関する実証研究」の報告、また関西3空港の現状・未来」(共)報告もあった。他の研究会と共同で開催している文献研究会では、「運賃・料金政策の効率性と運輸企業の利益」、「交通手段選択における Co-evolutionary modeling」、都市交通における「運賃と乗車距離の関係の分析」；都市バスにおける「運送請負契約と費用効率性」が報告された。また部会においても「総合交通政策と規制改革」のテーマで、交通を中心とする都市圏構造の変化についての研究報告や、公共経済学・交通経済学の定期的な勉強会を開催するとともに、鉄道・自動車交通などに関するデータベースの形成に努めた。